

平成31年1月24日実施

「聞こえない・聞こえにくい子どもとのコミュニケーション ～聞こえない世界ってどんなもの?」の様子

講師：河崎 佳子さん

(神戸大学大学院人間発達環境学研究科 教授)



♪こんなことをお話いただきました♪



- ・聴覚障がいについての基礎知識
- ・聞こえない世界って？
～当事者の体験から。どんなことを感じて、
どんなことに困っているのか。
- ・聞こえない子への理解と接し方

【きこえないってどういうこと?】

- ★聴力レベルを表す単位は音の強さを示すデシベル (dB) で、一般に、30dB 以上を「軽度難聴」、50dB 以上を「中度難聴」、70dB 以上を「高度難聴」、90dB 以上を「重度難聴」と呼びます。
- ★きこえの型はオーディオグラム (聴力図) で表し、さまざまな形が存在します。
- ★聴覚障がいの種類には、「伝音難聴 (外耳・中耳に支障があり、重度の難聴はない)」、「感音難聴 (内耳・神経に支障があり、軽度～重度の難聴がある)」、「混合難聴」があります。
- ★伝音難聴は補聴器装用の効果が高いケースが多いです。一方、感音難聴の音のきこえ方は「ゆがんだ、こもった、くぐもった」などと表現され、補聴器を装用 (音を大きく) しても、修正されません。
- ★聴覚障害における「聞こえない」体験は決して一様ではありません。さまざまな種類があるので、条件が異なると、きこえの体験もまったく違ってきます。大きな声で言ったら、聞こえるわけではありません。口を大きくはっきり開け、表情を豊かに、簡潔に話すことが大切です。見えることを保障し、誰が話しているのかを明確にしましょう。また、筆談やスマートフォンなども利用することも心がけます。それは、互いがわかり合っていくために、相手にとってだけでなく、自分にとっても大切なことです。うまく伝えることができない場合は、「相手が聞こえないから！」のせいにしないで、自分の伝え方を振り返ってみましょう。

【きこえない人々のコミュニケーション手段】

- ★手話 (日本手話、日本語に合わせて表現する対应手話)、口話 (発声と読唇)、文字 (筆談・パソコン・スマホ) など。
- ★日本語にあわせて使う対应手話は、言語としては日本語。→頭の中に日本語があります。
- ★日本手話とは、独自の文法をもつ映像言語であり、「映像」をそのまま手話で表現し、手話表現を言語としてそのまま理解。→頭の中に日本語がありません。
- ★ネイティブサイナー (手話言語を自然獲得したサイナー) との交流があることで、聞こえない子も聞こえる子も、手話を自然に獲得していくことができます。

★映像思考を保障され、映像記憶の想起が活性化されると、自分の本音、感情を察知して、表現できるようになります。感情体験が豊かになるだけでなく、論理的思考の可能性が広がります。「一生懸命読み取らなければ！ 間違えないようにしなければ！」とっていると、自由な感情が働きにくくなりますが、手話に出会って、がんばらなくても「見たらわかる」ことを知ると、感情が溢れ出し、単なる情報のやりとりを超えた、「真のコミュニケーション」が可能になります。

★また、軽中等度難聴者の方は、中途半端なきこえのため、余計に難しいこともあります。「聞こえにくい人」と言われることがあります。私は「聞こえるときと聞こえないときがある人」と思っています。周りから「聞こえているでしょ？」と思われるため、自分自身もよくわからないまま傷ついてしまうことが多いです。そんな方が手話と出会うと、自分がどれだけ聞こえていなかったのかを自覚し、アイデンティティの再形成にもつながります。

【愛着形成について】

★「ママ＝安全・安心をくれる存在」→「ママは私の表現に応じて、喜んで受け止めてくれる」→「ママの心の中に私がいる」→「私とママは伝え合える」→「私の心の中にもママがいる」ママは特別な存在で、ママとのコミュニケーションが楽しくて、赤ちゃんはコミュニケーションの核にママを置きます。「私のコミュニケーションは喜んで受け止められて、ママとのやりとりと関係性は、私の中にもママの中にも保存されている」という愛着プロセスが展開していきます。

★この愛着形成のプロセスを、「わかりあえる言語」でできることが大切です。いきなり手話を覚えるということではなく、日本語に表情や身振りを上手につけたり、「聞こえない人」と接してみたりしてみてください。



【目で生きること】

★きこえない子どもたちは「見たら全部わかるよ！」と信じてくれる大人が大好きです。目で生きることが保障し、寄り添ってくれる大人から多くのことを学び、関係を楽しめる存在に成長していくことができます。

☆講義の後半で、大阪府乳幼児期手話言語獲得支援事業「こめっこ」の紹介がありました。こめっこに参加している子どもたちの様子を映像でご紹介いただきました！

♡アンケートより♡

- ・周りに何人か難聴の友達がありますが、「ただ聞こえにくい」ととらえていました。大きく話せばいいとか、口を大きくあけて話せばいいと、単純に考えていて、失礼な対応もしてきたんだと思いました。手話を覚えれば、普通に話せるとも思ってましたが、日本語手話とか、本当に知らないことばかりで、今日は勉強になりました。
- ・ここに来て、息子の不自由さを知り、涙があふれる場面もありました。今まで以上に息子と向き合い、しっかりと息子が伝えたい事を受けとめ、理解できればと思います。来て良かったです。ありがとうございます。
- ・「こめっこ」は名前だけ知っていたので、活動の様子が見れて良かったです。大変勉強になりました。又、友人に参加をすすめたいです。